

26P-pm174

超高齢社会に必要な地域密着型薬剤師育成のための教育プログラム「老年薬学」
○岸本 桂子¹, 福島 紀子^{1,2}, 川本 嘉子², 林 直子², 崔 吉道¹, 笠原 忠¹(¹慶
応大薬,²慶応大附属薬局)

【目的】本学薬学部は「科学の基盤をもった、人に優しく尽くす、資質の高い薬剤師を育成し、社会に貢献すること」を目標とし、平成18年度文部科学省採択現代GP「超高齢社会に必要な地域密着型薬剤師の養成」に取り組んできた。三年間の取組で得られた知見について報告する。

【方法】2006～2008年度に以下の活動を実施した。

①介護施設における継続した体験学習の実施(通年募集)、②車イス・高齢者疑似体験学習のカリキュラムへの導入(1年必須)、③薬学生を対象とした介護スキル実習の実施、④附属薬局実習へ的高齢者支援内容の導入、⑤多職種を対象としたフォーラムの開催、⑥薬剤師対象の研修の実施、⑦医療系実習(4年必須)へ的高齢者支援に関わる内容の導入、⑧老年薬学(4年選択科目)の創設

老年薬学の創設を目指し、薬学教育において必要な内容を選定し吟味することを目的に準備委員会を設置した。委員会での話し合いを基に、現役薬剤師40名を対象とした1回6時間の10回シリーズの研修(薬剤師として身に付けておきたい～高齢者支援の実践に必要な知識と技術～)のカリキュラムを作成し、2008年7月より実施した。受講生に対し、開始前と研修参加後毎にアンケートを実施した。

【結果】3年間の取組で得られた知見と研修を受講した薬剤師の意見を参考に、老年薬学設立準備委員会にて老年薬学のカリキュラムを作成した。これをもとに、2009年度4年生のカリキュラムとして「老年薬学」を、一部を医療系実習として導入した。通年実施している介護施設での体験学習、1年生対象の疑似体験学習、4年生対象の老年薬学、医療系実習と、超高齢社会に必要な地域密着型薬剤師の育成のための一連の教育プログラムを構築した。